

第 42 回 START プログラム (台湾)

2017 年 3 月 15 日から 3 月 30 日までの約 2 週間、第 42 回 START プログラムに学部 1 年生 24 名が参加し、引率の荒見泰史教授 (総合科学研究科) 及び本田義央教授 (国際センター) ほか引率職員 1 名とともに、台湾、台北の新北市にある輔仁大学 (Fu Jen Catholic University) に留学しました。

現地では、中国語の講義に加え「現代台湾における日本語」「台湾の民間信仰・媽祖について」などの講義を受けました。また、台中・台南への研修旅行も実施しました。限られた日数の中で最大の学習効果を得るために、講義後の自由時間も多く確保したため、グループ単位での遠方への見学調査が毎日行われました。それに伴い、安全管理についての約束事を定めて日々の終業ミーティングで徹底し、全員が協力しあい無事故でのグループ行動を全日程で実現しました。

輔仁大学で平日に毎日実施された中国語語学研修では、3 クラスに分かれ、習熟度別に語学講義が行われました。講義後の自由時間にはその日に習った内容を駆使して輔仁大学の学生や街中での現地の方々とのコミュニケーションをとり、インプットとアウトプットのサイクルを 1 日のうちで行なうという共通目標を立て、1 日のうちのすべての時間を語学習得と異文化理解に充てることを意識して経験回数を重ねることができました。講義後の自由時間では、グループごとに分かれ、輔仁大学の学生と共に、または本学学生のみで九份、中正紀念堂、故宮博物館、夜市、台北動物園、淡水、龍山寺、台北各地の媽祖廟などを見学に向かい、課外学習や学生交流およびグループ発表のための調査も実施しました。

その他にも、昼食時間を利用した英語ランチ会では、英語しか話せない人とのコミュニケーション場面を想定し、グループごとに毎回担当の先生を変えて英会話の訓練を実施しました。

また、エクスカージョンとして、媽祖祭に合わせプログラム後半の週末に 1 泊 2 日の台中・台南研修を実施し (嘉義市のホテルに宿泊)、全員が初めての経験となる大甲鎮瀾宮や彰化市南瑶宮での媽祖祭の見学を行いました。3m 近い背丈の人形の行進や、爆竹や銅鑼が鳴り響く壮観な非日常の空間に触れ、参拝者によって手向けられた数万本の線香の煙が渦巻く媽祖廟内で繰り広げられる、信仰の様式を目の当たりにしつつ、宗教・文化について体験的な学習をし、知識と経験を深めました。その他にも、新港奉天宮、新港香藝文化中心、嘉義北港朝天宮、南投竹山紫南宮、などを見学しました。

修了式前の時限には、輔仁大学語学センター長や教職員、輔仁大学学生、関係者約 60 名

が注目する中、語学講義の 3 クラスに分担したチームごとに語学学習の成果発表を行いました。また、本学側の出しものとして、東海地区出身の学生による伝統芸能ひょっこ踊りと本学応援団の学生を中心として編成された応援団による演舞・エールを行なった後、本学学生 24 名全員で作成した千羽鶴 1,800 羽分を、センター長ならびに教職員の先生方に贈呈し、お礼と併せての日本の伝統文化・芸能の紹介を行いました。

帰国後に実施されたグループ別発表会では、事前学習で調べた基本的な事柄に加え、現地で掘り下げた調査内容を発表しました。また、各学生の個人発表では、海外留学へ対する意識の劇的な変化や、語学習得に対する意気込みの変化を挙げる学生が多く、今回のプログラムにおいて総合的な学習効果を十分に獲得したことを全員で確認し合いました。



台中・彰化市南瑶宮での集合写真。
初めて媽祖祭を見学しました。



英語ランチ会の様子。輔仁大学の教職員や大学院生と、英会話による交流会をしました



中国語の講義の様子。毎日の語学講義で集中して学んだため、効果が顕著に現れました。



修了式には、応援団員を中心に編成されたメンバーによる応援演舞も披露しました。